

定数削減を決定 16人→14人 議論白熱

「小川町議会議員定数条例の一部を改正する条例」は、1時間以上にわたる白熱した議論が行われ、人口減少や少子高齢化の中、議会の在り方が問われる本条例は、僅差で定数削減の結果が

われました。反対・賛成討論者は、各3人合計6人で、過去に類をみない討論者数になりました。次回、一般選挙から定数14人となります。

反対討論



定数減は1人がよい

関根慶則

「議員定数検討特別委員会」の出した結論(削減)に反対するものではありません。提出議案の2人削減に反対し、**削減は1人に留めるべき**と考えます。

議員2人減による議会費の削減(年間1,026万円)は認めますが、他にどんなメリットがあるのでしょうか。人口減少、少子高齢化、デジタル社会の時代だからこそ、議会には多様な人材が必要だと考えます。

地域によって異なる顔をみせる小川町で、可能な限り全町民・全地区の意見を反映していくためには、議員2人の削減は影響が大きすぎると考えます。



今こそ議員数維持すべき

五十嵐康博

第一に、**議員定数削減の時期が適切ではない**点です。少子高齢化への対応など課題が、山積している今でしょうか。

第二に、若い世代や新しい人材の立候補機会を守ることです。議員削減は、地区や組織の後押しを受けた候補が有利になるだけです。

第三に、議会のチェック機能と多様化する町民ニーズへの対応です。定数削減は、町民の声を集約できず執行部に対するチェックが弱まるので、町の仕組みが変わった後に、検討すべきではないでしょうか。



多様性が重要

鈴木秀尚

議員定数の見直しは、人口減少の中でやむを得ないと捉えていますが、その人数は、最小である1人に留めるべきだと考えます。

現議員は、多種多様な知見や経験を生かして、小川町をよくしようと奮闘しています。それを**一度に2人減らしてしまうと、多様性をそぐ**こととなります。

様々な課題を抱える町政にあつては、ワンチームで事に当たらないと解決できませんが、皆が同じ方向を向きつつも、多角的・多面的に取り組む必要があります。定数減は「1」に留めるべきではないでしょうか。

反対

田中立男

議員定数の削減は、町民の声を町政に届けるパイプを細くすることになると考え、定数削減には反対です。

大戸久一

定数削減は人口減少の中やむを得ないが、現役世代でも議会参入しやすい環境を整え、熟考の上削減を。

笠原規弘

10年スパンで定数を見直すべきだった。2年後に1人減、10年後に2人減が最適。不利益を被るのは町民だ。

田中照子

なぜ今か。選挙で定数割れがない。若者を議会にと報酬の引上げが課題。見直しは必要だが今ではない。



議長 高瀬 勉

「定数14議会」のスタートに向けて

全議員で約1年半の期間を要してきました。また、昨年12月には置き、全9回に及び会議を重ねる方向性が示されました。

これまでの経緯を踏まえて提1票差で可決。賛否いずれも、苦くありません。

次回(令和9年予定)の一般選挙から定数は「14」となります。今期の残任は、さらなる議会の機能強化と議員の資質向上に努めて、取組を加速していきます。

「定数の見直し」に係る議論を深め「議員定数検討特別委員会」の中で【削減することが適切】との

出された「定数2減」の改正案は決の決断であったことは想像に難

賛成討論



議員自ら厳しい選択を

高橋功人

定数14に改正することは、急激な人口減少への対応であること、改正が約20年振りであること、志木市や宮代町など小川町より人口の多い市町で、既に定数14であることから、**2人削減こそが住民の期待**に答えることです。

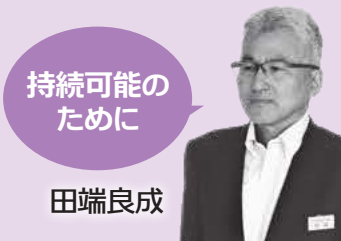
議員定数が少なくなることにより、町民の意見を聞く機会が少なくなる**デメリットに対して、地区懇談会等で対応**できます。

問題に対して、**議員自ら厳しい選択をすべき**で、勇気を持って定数14を決意しようではないか。

第一に、議員の量ではなく質が重要です。本来少ない人数でできる仕事も、今いる人数でなければならぬと考えがちになると1955年に提唱した人がいます。

第二に、AIです。町民の意見集約は、短期的には地区懇談会、将来にはAIが担うと考えます。

第三に、財政状況です。将来の健全な収支バランスのため、全ての人が少しずつ歩み寄ることが重要で、議員も例外ではないはず。議員削減は、**町民の利益**に沿うことではないでしょうか。



持続可能のために

田端良成

私は小川町に移住して1年半後に立候補し、議員になることができました。組織の後ろ盾もなく、地区の代表でもない私が当選できたことは、議員定数が削減されたとしても**「頑張れば誰にでもチャンスがある」**ことを、私自身が身をもって証明していると考えます。

定数の見直しについては、これまで特別委員会で十分に議論が行われてきました。それでも「時期ではない」というのなら、一体いつ削減を行うのでしょうか。私は、今こそがその時だと考えます。「やるなら、今」ではないでしょうか。



やるなら今でしょう!

稲村穠治

賛成

高橋さゆり

今後の縮小社会を鑑み、町民に対して、議員自身が身を切る改革を示さなければ町民からの信頼は得られない。

笠原英彦

主権は町民に有り、町民の付託を受けた議員の一人として、地域住民の声(削減)が腑に落ちるので賛成とします。

岡部久志

議員定数検討特別委員会委員として十分な議論を重ね、人口減少の進む中、財政効果も含め、将来を見据えた。

山口勝士

「16人いなければ」は、20年経過「見直し」検討で通用しない。14人で経費削減と時代に合う議会の実現を。

島崎隆夫

議会には『多様な議員』ではなく『多様な民意を反映できる人』が必要。広聴の充実と機動力を備えれば大丈夫。

